

2022年10月3日

報道関係者各位

バイク未来総研

バイク未来総研、『リセール・プライス』ランキングを発表 『ホンダ・CB400 SUPER FOUR』が首位獲得！

対象期間 2022年6月～2022年8月

バイク業界のよりよい未来を考え、新しい価値を調査し、分析した内容を広く社会に発信することを目的に活動を行うバイク未来総研(所在地:東京都港区、運営:Bike Life Lab supported by バイク王)は、2022年6月～2022年8月の期間を対象に、「再び売却した際、高値の付くバイク」＝「リセール・プライス」の高いバイク」上位10車種を『Bike Life Lab supported by バイク王』に発表いたしました。

「リセール・プライス」の高いバイクは、需要の高いバイク、つまり「人気のあるバイク」と言い換えることもできます。42回目となる今回は、第41回に引き続き『ホンダ・CB400 SUPER FOUR』が首位に輝きました。

◇ 『ホンダ・CB400 SUPER FOUR』 が首位獲得！

◇ 上位5台がホンダ独占！



©Honda

◇ 佐川健太郎氏 インプレッションムービー公開中

『リセール・プライス』ランキングにて、上位10車種にランクインしたモデルを始め、複数の人気車種をモーターサイクルジャーナリストの佐川健太郎氏にインプレッションしていただきました。詳しくはURL (<https://www.8190.jp/bikelifelab/movie/shijou/>) をご覧ください。

※本リリースの調査結果を転載される際は、必ず「バイク未来総研調べ(<https://www.8190.jp/bikelifelab/notes/bikefuture/resale-ranking/>)」とご明記ください。

プレスリリースに関するお問い合わせ先

■株式会社バイク王&カンパニー

バイク未来総研
担当:西方、赤松
TEL 03-6803-8866
E-mail bikelife_lab@8190.co.jp
東京都港区海岸 3-9-15 LOOP-X 13F

■株式会社スクランブル

プランニング局
担当:大竹、梅田
TEL 03-6894-6895 / FAX 03-5413-3050
E-mail bike-o@scramble.jp
東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

■ 総合ランキング

順位	メーカー・車種	リセール・プライス
1	ホンダ・CB400 SUPER FOUR	160.4 Pt
2	ホンダ・CB400SUPER BOLD'OR	136.4 Pt
3	ホンダ・クロスカブ 110	123.6 Pt
4	ホンダ・GB350	119.3 Pt
5	ホンダ・モンキー125	116.4 Pt
6	ヤマハ・YZF-R7 ABS	116.0 Pt
7	ホンダ・レブル 1100 DCT	114.9 Pt
8	ホンダ・GB350 S	113.6 Pt
9	ホンダ・レブル 1100	113.0 Pt
9	ホンダ・CB1100RS	113.0 Pt

◇対象期間 2022年6月～2022年8月

42回目となる『リセール・プライス』ランキングは、『ホンダ・CB400SUPER FOUR』が第41回に引き続き首位に輝きました。2位との差は24Ptと大きな差がついており、第41回から36.9Ptポイントが上昇しました。

ホンダ・CB400 SUPER FOURは、1989年にカワサキ・ZEPHYRが発売されたことによってネイキッドブームが盛り上がりつつあった頃である1992年に発売されました。水冷4気筒DOHCエンジンを搭載したこの車両は、発売後もエンジンに可変バルブ機構「ハイパーVTEC」の採用や吸気系をキャブからPGM-FIに変更など、発売してからも進化を遂げてきた車両です。現在、新車として販売している400ccクラスでは唯一の直列4気筒エンジン搭載の車両となっています。ネイキッドの代表格として登場から長年君臨し、クセのない乗り味で教習所でも教習車として使われ続け、いわずと知れたロングセラー車ですがついに令和2年排出ガス規制に対応することなく2022年4月28日より株式会社ホンダモーターサイクルジャパンより惜しくも生産終了と情報が出ました。

社外メーカーよりCBX400Fを彷彿とさせるデザインの外装キットが発売されるなど、生産終了の情報が出てからも注目を集め、多くの方から愛されているバイクです。

■ 排気量別ランキング上位5位

・原付一種・二種

順位	メーカー・車種	リセール・プライス
1	ホンダ・クロスカブ 110	123.6 Pt
2	ホンダ・モンキー125	116.4 Pt
3	ホンダ・PCX e:HEV	104.9 Pt
4	ホンダ・スーパーカブ C125	104.5 Pt
5	ホンダ・スーパーカブ 110	101.7 Pt

・軽二輪

順位	メーカー・車種	リセール・プライス
1	ホンダ・レブル 250	100.0 Pt
2	ホンダ・PCX160	99.4 Pt
3	ホンダ・CRF250L	97.1 Pt
4	ホンダ・ADV150	94.0 Pt
5	ホンダ・FORZA	90.2 Pt

・ 中型二輪

順位	メーカー・車種	リセール・プライス
1	ホンダ・CB400SUPER FOUR	160.4 Pt
2	ホンダ・CB400SUPER BOLD'OR	136.4 Pt
3	ホンダ・GB350	119.3 Pt
4	ホンダ・GB350 S	113.6 Pt
5	ヤマハ・SR400	100.9 Pt

・ 大型二輪

順位	メーカー・車種	リセール・プライス
1	ヤマハ・YZF-R7 ABS	116.0 Pt
2	ホンダ・レブル 1100 DCT	114.9 Pt
3	ホンダ・レブル 1100	113.0 Pt
3	ホンダ・CB1100RS	113.0 Pt
5	ホンダ・CRF1100L DCT	102.5 Pt

■ 『リセール・プライス』とは

バイクを再び売却(=リセール)するときの価格(=プライス)を指します。

2022年10月現在、新車で購入が可能なバイクを対象とし、オークションで売却した際の落札金額の平均値と新車販売価格を基に『リセール・プライス』をポイント化。ポイント数が高いほど、『リセール・プライス』が高いと想定できます。

本指標は、200万台以上の累計取扱台数を誇る『バイク王』のデータを基に、バイク未来総研が独自に集計したものであり、バイクユーザーが新車あるいは中古バイクを購入する際の参考情報として活用されることを目的としています。

■ 算定基準

- ・国内主要4メーカーが、国内で販売しているバイク(2022年10月現在・逆輸入車を除く)
- ・新車販売価格は2022年10月現在の価格を基準。カラー等により価格が複数ある場合は、最安値を基準に算定
- ・モデルチェンジが実施された場合は、最新モデルのみを対象とする
- ・期間内に、バイク未来総研独自の規定台数に達する流通があるバイクを対象とする

【バイク未来総研について】

2022年3月にバイク業界のよりよい未来を考え、新しい価値を調査し、分析した内容を広く社会に発信することを目的に発足しました。

国内外のレースで輝かしい成績を挙げ現在はモータージャーナリストのほか多方面で活躍する宮城光氏を所長に向かえ、バイクライフの楽しさやバイク王が持つバイクに関する独自データ分析などの情報発信に加え、ライダーやバイク業界がこれから描く「未来」に切り込んだコンテンツを順次発信します。

■ バイク未来総研所長 宮城光のココがポイント

今回、発表された順位を見てみると SDG's 時代を反映するかの如く、手堅い車両に人気が集まっていると感じました。使い捨てる時代では無く、奇抜さを求める事も無く、どこかで永く付き合い合えて平和的なバイクへ多くのライダーがリアクションしていると考えます。勿論そこには何れ「手放す」と言う事もどこかで考える事で、本当に価値有る製品に注目が集まっているのでしょう。

全般に定番モデルが主とも言えるランキング車両の中にヤマハのYZF-R7 ABS が食い込んでいる事は注目と言えます。ミドルクラスを購入できるお客様層には他の選択肢が多くある中で、スーパースポーツを纏った R7 の「扱いやすさ」をしっかりと見抜くお客様の、バイクへの本質を評価する「目」をも感じるランキング入りと言えます。

